

# 活動成果報告書

平成25年度（第17回）「チョダ地域保健推進賞」

## 活動テーマ

安全で安心した出産ができる島をめざして

～離島の保健師が歩んだ36年、そしてこれから～

応募グループ名称及び氏名（グループの場合は代表者名）

隠岐島前地域保健師グループ

代表者：伊藤 恭子

勤務先：島根県隠岐保健所

所 属：島前保健環境課

所在地：〒684-0302

島根県隠岐郡西ノ島町大字別府56-17

T E L : 0 8 5 1 4 - 7 - 8 1 2 1

F A X : 0 8 5 1 4 - 7 - 8 9 1 0

E-Ma i l : ito-kyoko@pref.shimane.lg.jp



## ◇活動方針

隠岐島前地域は3つの離島からなり、各島がそれぞれ町村（海士町、西ノ島町、知夫村）を形成している。3町村を合わせた人口は約6000人で、毎年40人前後の出生があるが、常駐する産科医が不在の状態が続いている。そのような環境の中で、安全で安心した出産を支えるために、昭和50年頃より3町村と保健所、医療機関が連携して対策を展開してきた。その結果、島外産科医による定期的な診療体制の整備、本土等での待機分娩の制度化とそのため町の助成等、安全な出産に向けて各種支援体制が整備された。しかし一方で、IターンやUターン者の増加、高齢化や核家族化等、取り巻く環境が変化する中で新たな課題も生まれ、さらなる検討を始めている。

## ◇活動内容と成果（H25年度の取組）

～待機分娩制度の定着に伴い発生した新たな課題に対して検討を開始した。～

住民の理解と協力、医療機関との連携に支えられた待機分娩制度は定着し、安全に分娩する体制は整ったが、一方で新たな課題も生まれている。その一つが、島内に残された家族の問題である。核家族化や高齢化が進み、第2子、第3子出産の場合、島に残っている父親等に家事や育児の負担がのしかかっている。町村で進められている定住政策により、多くのIターン、Uターン者が定住してきているが、その多くは近隣に支援する人を持たないため、残された家族の負担はより大きくなっている。一方で、母親は慣れない土地で

# 活動成果報告書

生活するために、食生活の乱れや、精神的なストレスを抱えることとなる。安心した出産を支援するためには、このような様々な課題の解決に向けた取組が求められており、今年度より、その検討をスタートした。

また、この40年に亘る取組は、「みる」「つなぐ」「動かす」という保健師の神髄とも言える活動である。その先輩保健師の活動を若い保健師が受け継いで欲しいと考えており、この新たな課題解決にむけた取組（実態調査から始まる地区診断活動）は、管内の新任保健師等研修に位置づけて実施している。

## 1) 検討の経過

6月5日	第1回研修会開催：妊婦及び出産経験者及び家族に対する調査の概要を検討
6～7月	アンケート案の作成
8月8日	第2回研修会開催：各町村の指導者を交えて実施内容を検討
10月	アンケート調査の実施
12月24日	第3回研修会：調査結果を踏まえて今後の取組について検討
2月4日	島前地域母子保健推進会議の開催
3月	第4回研修会の開催

## 2) 実態調査の結果

妊婦及び出産経験者とその家族に対してアンケート調査を実施した結果、下記の通り課題が整理された。

【結果のまとめ】（回答者数 妊婦8件 出産経験者27件）

時期	母親	家族	
困ったこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>分娩待機に関する説明が不十分だった。</li> <li>「出産に関する費用」「お腹の中にいる子どもの状態」「出産する病院を決めるための情報」に関する情報が不足していた。</li> <li>「家族教室」「気軽に相談できる窓口」など交流したり、話を聞いてもらえる場が少なかった、分からなかった。</li> <li>待機についてのイメージが湧きにくかった(地理、交通、買い物、費用等)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>交流や相談というよりも、家事サポートや延長保育、配食サービスなど、物理的支援を望む声が多かった。</li> <li>働きながら育児をすることへの不安・負担が大きかった。(支援者不足、職場の理解が不十分)</li> </ul>	
待機出産	<ul style="list-style-type: none"> <li>母親自身の相談窓口を求める声とともに、残された家族に対する支援が欲しかった。</li> <li>島を離れて1人で出産を待つことへの精神的負担が大きかった。</li> <li>待機先の地理、買い物、交通など生活に必要な情報が不足していた。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>交通の便が悪く母親のもとにすぐにつけられない。また、交通の費の負担も大きかった。</li> <li>宿泊場所の選択肢を増やしてほしい。</li> </ul>
産後	<ul style="list-style-type: none"> <li>子育てサロンや子育て支援センターなど、母子ともに関われる交流の場を求めている。</li> </ul>		
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>同園で出産可能な環境整備をして欲しい。</li> <li>助成金の増額をして欲しい。</li> </ul>		
良かったこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>家事から離れゆっくりと過ごすことができる。</li> <li>必要なものがすぐに手に入る。</li> <li>緊急時も安心できる。</li> <li>助成がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>上の子どもとコミュニケーションがとれた。</li> <li>家族の絆が深まった。</li> <li>緊急時も安心だった。</li> </ul>	

# 活動成果報告書

## 3) 今後の取組について検討

上記結果を踏まえ、第3回新任保健師等研修会で今後の取組について検討を行った。ラベルワークの手法を用いて意見を集約し、今後の活動の目的と目標を下記の通り整理した。

### 【目的】

「妊産婦、家族が安心して出産するためのネットワークづくりを行う」

### 【目標】

- ①全ての妊婦が分娩の情報を知ることができる。
- ②妊産婦が不安を表出でき、解決する方法を入手できる。
- ③待機中の家族が安心して生活することができる。

## ◇今後の計画

上記取組により、妊産婦及び家族の不安や希望を具体的に把握し、今後の方向性を確認することができた。今後はその結果を町村はもとより、関係機関と共有しながら具体的な取組を下記の通り進めて行く予定である。

### 1) 関係機関との協議

#### ①島前地域母子保健推進協議会の開催

開催日：2月4日（火）

主催者：隠岐保健所島前保健環境課

参集者：医療機関、地域代表（栄養士会、PTA）、行政（町村、保健所）

内 容：実態調査の報告、課題及び方向性の確認、具体的な取り組みとして「情報提供の在り方」について検討を深める。

#### ②各町村における健康づくり推進協議会母子部会での検討

家族から要望が多かった、食事等の支援体制について町村ごとに検討を深める。

### 2) 安心した出産に向けた体制整備

①待機場所（ホテル）での生活を快適にするための体制整備を行う。（保健活動助成金を活用する）

②情報提供の内容を充実する共に、一貫して漏れのないような情報提供ができるようマニュアルを作成する。

以上